暮しを支える石油
車と省エネルギー

石油問題が深刻になってきました。日本の場合は、産業輸送・民生すべてのエネルギーの七〇％を石油でまかなっています。また石油の九九・七％は、輸入しています。

昨年の原油輸入量は、二億七千六百万㌔㍑を超えています。この原油輸入量は、豊栄市の面積七六・二五平方㌔㍍と同じ底面積の升で量ると三・六㍍ほどの深さになります。

資源の乏しい日本は、石油などのエネルギー源を、もっと大切にしましょう。

国内の交通機関は、全体のエネルギーの一七％を消費しています。これを石油だけでみると全体の二三％と、消費の割合は高くなっています。

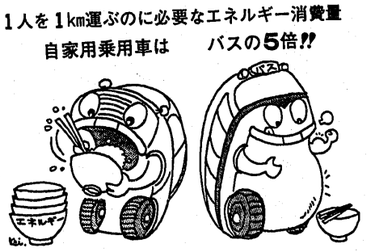
国内の交通機関の消費する石油エネルギー消費量の七七％を自動車が占め、その半分近くは、マイカーなどの自家用乗用車が消費しています。

自動車は、省エネルギーが期待されている大きな分野のひとつです。

一人を一㌔㍍運ぶのに必要なエネルギーは、自家用乗用車が最も効率が悪く、バスの五倍も消費します。これを鉄道の八倍、バスの五倍も消費します。

旅客輸送量とエネルギーの消費量の関係からみると、自家用乗用車は全輸送人員の三分の一しか運んでいないのに、エネルギー消費量は三分の二にも及んでいます。

レジャーや通勤、買い物などは、なるべく鉄道やバスなどの輸送機関や自転車を利用したいものです。



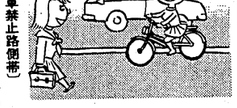
市では節減要綱を制定

市では、「豊栄市省エネルギー・省資源に関する要綱」を定め、全職員で行政関係の省エネルギーと、省資源に努めています。

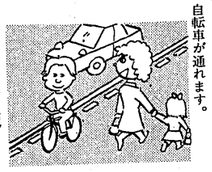
要綱の要旨は、電力・石油類、用紙、水等の節減を定めたもので、冷暖房機器使用の制限、自動車使用の制限、消灯の励行、高級紙使用の制限などを規定しています。

要綱の制定によって、市役所では、照明の間引きや服装の簡素化、冷暖房機器の最少限使用などを行って、これまでの電力や石油類使用量と比較して、さらに節減に努めることにしています。

路側帯（ろそくたい）を通ろう



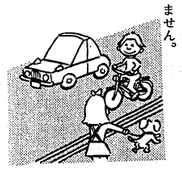
〔駐停車禁止路側帯〕
白い実線の左側に点線が引かれたもので、この路側帯も自転車が通れます。



歩道のない道路で、左側に白い線が引いてあるのを見たことがあるでしょう。この白い線から道路の左端までの帯状の部分を路側帯といいます。

この路側帯は、歩行者の通行のために設けられたもので三種類あり、このうち自転車が通ってもいいのは二種類です。

〔普通の路側帯〕
一本の白い実線が引かれたもので自転車も通れます。



〔歩行者用路側帯〕
二本の実線が引かれたもので、これは歩行者専用という意味ですから、自転車は通行できません。ただ、歩いて自転車を押していくのはかまいません。

五十三年度の収税状況
市税は九七・五パーセント

五十三年度会計は、五月末日で閉鎖されましたが、このたび、五十三年度の市税の収納状況が、まとまりました。

一般会計は、五十三年度課税分十二億三千五百五十万九千円、滞納繰越分二千九十五万一千円、合計十二億五千六百四十六万円に対し、収入済額は十二億二千四百七十八万八千円で、収入歩合は九七・五％でした。なお、五十二年度分同期の収納歩合は、九八・二％でした。

特別会計の国民健康保険税は、五十三年度課税分四億三千七百二十万六千円、滞納繰越分二千八百八十八万二千円合計四億五千六百八万八千円に対し、収入済額は四億二千五百六十九万七千円で、収入歩合は九三・三％でした。なお、五十二年度分同期の収入歩合は、九五・二％でした。

一般会計、国保会計ともに前年より収納歩合が低下しましたが、これは、水害による影響が大きいものと見られます。

・村づくり運動を推進する旨あいさつする市長。

みんなで考えよう村づくり研究集会（森下）

みんなで考える村づくり研究集会が六月二十六日から二日間、岡方の森下地区と豊浦町月岡で開かれました。

森下地区は、昭和五十二年度新潟県農山漁村生活環境整備特別指導事業で〝心の通う村づくり〟実施地区に指定され、これまで、部落の鎮守周辺の公園化をめざし、五十年ぶりにひょうたん池を再現し、アヤメやショウブを植えたり、病気見舞の返礼廃止、清掃の定期実施など積極的に取り組んできました。

研究集会には、地元森下地区の村づくり推進委員、指導に当ってきた農業改良普及所のみなさん、それに昨年度指定を受けた佐渡郡佐和田町など県内五地区の人たち約百人が集まり、熱心に意見交換を行いました。

第一日めは、三ツ森地域を徒歩で現地研修した後、大けやきのある薬師堂広場を会場に、活動事例の発表や、豊栄市の農業と村づくりの概要説明などがあり、最後に内沼のハウス、葛塚農協の集出荷場を見学しました。

二日めは、会場を月岡に移し、活動交換や研究集会のまとめがあり、幕を閉じました。

・体験を語り合って昼の食事。

・〝心の通う村づくり〟の実践内容を意見発表する原市さん（森下）。図を使って、具体的にコミュニティづくりを説明。

・事例発表を熱心に聞く人たち。

・昨日の現地研修、事例発表を終え、意見交換する（月岡）

・実際に現地をみて研修（森下で）

・立派にでき上った〝ひょうたん池〟。ショウブが咲きほこっている。